

Gifu Keizai University

岐阜経済大学マガジン

GKUN **W!**

vol.
85

2013.August



【特集】②

創部3カ月 駅伝部 秩父宮賜杯 全日本大学駅伝対校 選手権大会 初出場!!

- ④ 輝く岐経大生
- ⑥ 輝け!アスリートたち
- ⑧ 教育最前線
- ⑨ フレッシュマンエクスカージョンを開催
- ⑩ キャリア支援課だより
- ⑪ 研究室だより
- ⑫ キャンパス彩々
- ⑭ 平成24年度決算報告
- ⑯ 親和会総会・父母懇談会／かがやきカレッジ2013〈後期講座〉／後期受講登録

岐阜県勢として

32年ぶりの快挙!

11月3日

伊勢路を疾走!

特集

秩父宮賜杯 全日本大学駅伝対校選手権大会

創部3ヵ月 駅伝部

初出場!!



6月29日(土)、瑞穂陸上競技場において第45回全日本大学駅伝対校選手権大会東海地区選考会(予選会)が行われました。本学は陸上競技部として毎年参加していましたが、今年4月に創部した駅伝部としては初めての挑戦でした。東海地区からの本戦への出場枠は2枠と狭き門ではありましたが、代表選手8名全員が持てる力をフルに発揮して、出場校12校のうち総合2位を勝ち取り、本戦への出場権を獲得しました。岐阜県勢としては12回大会(1981年)以来、32年ぶりの快挙です。

本戦は11月3日(日)に、愛知県名古屋市熱田区の熱田神宮西門前から三重県伊勢市の伊勢神宮内宮宇治橋前までの106.8kmで行われ、各地区の代表校が日本一を賭け、競い合います。本戦の様子はテレビ朝日系列で放送される予定です。ぜひご覧ください。



損斐 祐治 監督のコメント

6月29日(土)に行われました全日本大学駅伝予選会において東海地区総合2位になり本戦への出場権を得ることができました。4月に駅伝部として活動を始め、練習環境や部内の規則などを作っていき段階で、なかなか上手くトレーニングが積めず、基礎練習しかできていない状態でした。東海インカレ後にチームミーティングを重ね、今年の目標は「中京大学、名古屋大学、愛知工業大学、皇學館大学の4強の一角を崩して3位を目指し、来年への足掛かりを作る」に定めて、今年は、駅伝部の土台固めの年にしよう選手たちと話し合いました。しかし、6月の中旬から予選会が近づくにつれて、選手たちの予選会に対する意識や気持ちが高まり、とても良い雰囲気の中で当日を迎えることができました。予選会のレースでは、1組目の大垣・島袋が強気の走りをしてチームに勢いを与え、2組目の杉本・鈴木が根性走りで大量のリードを稼ぎ出し、3組目の米田・安田がよく粘りリードを保ち、4組目の横山・上野が後半崩れることなく逃げ切り、予選会としては、理想のレース展開でした。この総合2位は、走った選手や付き添い、応援に回った者全員がよく頑張り、駅伝部全員で勝ち取った結果です。予選会を振り返り、私の予想を遥かに上回るレース結果に、若い選手たちの力が結束し十分に発揮された時の勢いの凄さには驚かされました。また、部を立ち上げてからの3ヵ月間の取り組みが間違っていなかったことが証明され、私や選手たちの大きな自信になりました。しかし、現段階の力では全日本大学駅伝では、全く通用しません。この夏、関東の強豪校と強化合宿を行い、本戦ではある程度勝負できるようにチーム一丸となって力を付けていきたいと思っています。これからもますますのご声援宜しくお願い致します。



出場選手たちの声

普段は寡黙、走りは強気!

大垣 皓暉さん

公共政策学科1年 焼田ゼミ 富山商業高校出身

今回は1組と言うことで流れを作る重要な役割を任せていただきました。あまり緊張もせずにリラックスして走れました。苦しくなったときでも皆さんの応援があり、粘って走ることができました。結果は組で3着でしたが、ラストで競り負けてしまったので、そこを反省点にして全日本大学駅伝に向けてしっかり練習を積んでいきたいと思ひます。予選会で、僕に勝利の女神が降臨しました!



冷静な状況判断で考えて走る!

島袋 匠さん

スポーツ経営学科1年 古口ゼミ 北山高校出身

自分の走りをして、チームに勢いをつけるようなレースをしたかったのですが、中間走が上手く走れず他大学の選手に離されてしまいました。しかし、レース後半で苦しくなってから粘ることができたので、そこは良かったと思ひます。初めての予選会で、不安もありましたが、応援団やサポートをしてくれた方のおかげで頑張ることができました。多くの人の応援があったからこそ、全日本大学駅伝への出場権を勝ち取ることができたと思ひます。



安定感とスピードが強み!

上野 立貴さん

スポーツ経営学科1年 摺斐ゼミ 益田清風高校出身

予選会では各校のエースが集まる4組を任されることになり、かなりプレッシャーに感じ、3組まで2位で通過してきていることを知ったときには、さらに緊張しました。しかし自分の組まで良い流れで運んでくれた仲間と全力で応援してくれた仲間のおかげで、レースに集中し最後まで走りきることができました。走り終わった後、チームの皆が駆け寄り「よくやってくれた」と声をかけてくれたり握手をしたりして喜び合うことができ本当に嬉しかったです。今回予選会を通過したことは大変喜ばしいことですが、ここからが本番になるのでさらに気を引き締めて頑張っていきたいです。



チームの牽引役!

安田 翔一さん

スポーツ経営学科1年 ローランゼミ 豊橋南高校出身

予選会を終えて、2位になることができ、目標であった全日本大学駅伝の出場権を手に入れることができました。すごく嬉しい気持ちと感謝の気持ちでいっぱいです。これはみんなが力を合わせて、「必ず全日本に行ってやる」という気持ちが、どの大学よりも強かったからだと思います。個人としては一週間前に熱を出してチームに迷惑かけてしまい、本当に申し訳ない気持ちでした。今回の結果で満足せず、これを第一歩として本番である全日本で他大学としっかり勝負し、必ず17位以内に入ります。そして、来年の予選会も2枠に入れるように頑張りたいです!



信頼感抜群の駅伝部主将!

米田 天明さん

経済学科4年 石原ゼミ 美方高校出身

全日本出場を決めたことに対して、まだ実感がわいてないのが素直な気持ちです。また個人的にはタイムが良くなかったので、嬉しさよりも悔しさの方が大きいです。11月の全日本には全員が走れるチャンスがあり、さらに選手枠への競争が高まると思ひます。その中でギリギリではなく確実にメンバー入りができるようにこれからも精進していきたいです。



堅実な走りで粘り強い!

杉本 智紀さん

スポーツ経営学科1年 高橋(信)ゼミ 愛知黎明高校出身

全日本大学駅伝予選会で走らせてもらったことに感謝します。そして、全日本大学駅伝の切符を勝ち取ることができてとても嬉しく思ひます。私は2組目に走らせていただき、走れなかった仲間のため、応援してくださいました指導者や仲間、両親の支えがあり自分なりのレースができました。チームに貢献することができて本当に良かったです。これから全日本大学駅伝に向けて仲間と競い合い、頑張っていきたいです。



気持ちは誰にも負けません!

鈴木 大史さん

スポーツ経営学科1年 稲垣ゼミ 市立岐阜商業高校出身

今回、初めて予選会を走らせていただき、とてもいい経験と喜びを得ることができました。僕は2組で走らせて頂いたのですが、1組の2人が最高の流れをつくってくれて、同じ練習してきた自分も絶対に大丈夫という自信になりました。最後まで粘ることができ、チームに貢献できたのではないかと思います。自分だけでは絶対にここまでできませんでした。同じ組だった杉本、その他のメンバーや部員、監督、マネージャー、そして両親。携わってくださった全ての方々の応援、サポートがあってこそこの結果だったと思ひ、とても感謝しています。しかし、僕たちが満足するのはここではないので、本戦では、なんとしても17位以内に入り、東海地区に枠を持って帰れるように、そして2年後、3年後には全日本で入賞争いに少しでも絡めるようにこれからも頑張ります。



レース勘がよく、上手い走りが魅力!

横山 颯大さん

スポーツ経営学科1年 大野ゼミ 土岐商業高校出身

私は予選会を走るのが楽しみでした。全日本を狙ってやろうと思って走れた結果が、全日本出場を決められたのだと思ひます。4組で走らせていただき、最後はとても緊張しましたが、上野と協力し合って自分たちのペースで相手に惑わされることなく走れたのが勝因だと思います。また、みんなの全日本に行きたいという気持ちがこういう結果に繋がったと思ひます。大垣が最初にいい流れを作ってくれたから、みんなも「俺もやってみよう」というふうになったのだと思ひます。予選会は通過点として本戦で結果を出せるように駒沢大学との合宿で距離を踏んで怪我をしないように全力で取り組んでいきたいです。全日本では、自分たちの走りができるように頑張りたいです。



大垣市長と岐阜県教育長を表敬訪問!

7月24日(水)と26日(金)、駅伝部の「秩父宮賜杯 第45回全日本大学駅伝対校選手権大会」出場に伴い、大垣市長と岐阜県教育長を表敬訪問しました。

大垣市訪問の際には、小川敏市長や坂喜美和教育委員会事務局長、田中伸司教育委員会社会教育スポーツ課長が、岐阜県庁訪問の際には、松川禮子教育長や南谷清司教育次長、福井康博教育次長、高橋幸平スポーツ振興企画監がご出席くださいました。

市長や教育長から励ましの言葉をいただき、駅伝部米田天明主将は「32年間の先輩方の想いを胸に、部員全員で頑張ります。」と大会への意気込みを述べました。



岐阜県教育長表敬訪問 2013.7.26



大垣市長表敬訪問 2013.7.24



駅伝部フェイスブック随時更新中。→ <https://www.facebook.com/gku.ekiden>
今すぐチェック!

輝く 岐経大生



・今まで井戸ゼミではどんなことを研究されてきましたか？

1年次から井戸ゼミに所属しているのですが、パソコンで主にJavaを用いて動的なウェブサイトの開発やアプリケーションの動作を制御することについて学んできました。1,2年次にはif構文や配列等を利用した簡単なサンプルを作成して基礎力を徹底的に身に付けました。学年があがるにつれて、JSPと呼ばれる技術で、HTML内にJavaのコードを埋め込み動的なウェブページを作れるようになります。

現在は制作として音声と視覚効果を使った作品を作っています。



稲垣さんが作成したサンプル

・昨年度のゼミナール大会で優秀賞を受賞されたね。どのような研究発表をされたのですか？

「学園ソング制作を支援するマルチメディアサイト」と題して、誰でも替え歌が作れるサイトを作り、発表しました。それをテーマにした理由は、歌が好きというところもありますが、大学を歌で盛り上げたいと思ったからです。既存の歌やメロディにあわせて、歌詞を考えて入力するだけで、歌を作ることが出来ます。クラブの試合のときの応援歌や学歌の替え歌などの作成に使うのもいいと思います。またそのサイトでは作った歌を保存することができ、公開もできます。そしてそれを見た人が感想を書きこんだり、投票ができる機能をつけました。その機能を使って、いろいろな人と楽しんでもらうこともできます。

・学園ソング制作を支援するマルチメディアサイトの活用先はありましたか？

まだありませんが、クラブの応援歌やゼミのテーマソング、個人的にも、なんでも大丈夫ですので、興味を持った方は井戸先生に連絡をください。

現在のサイトには学歌やドレミの歌きさら星といった曲しかないのですが、既存の歌のなかで希望を言ってもらえれば、少時間ばかりですがどんな曲でも作成できます。

・今年度で卒業ですが、残りの大学生活でやりたいことは？

今までプログラミングの勉強をしてきましたが、なにかを作ろうという目標がないと勉強してきたことが生かされません。また、プログラミングには関数などの数学的な力と、解説が英語で書かれていることが多いので英語の力が必要ですから、その勉強をしようと思えます。あとは、映像をきれいに見せるための美的センスも磨きたいですね！



井戸ゼミ所属
稲垣 真平さん
情報メディア学科4年
大垣南高校出身

大学を歌で盛り上げたい！

・大垣市の財政について研究されているとお聞きしましたが、具体的にどんなことを研究されていますか？

大垣市の財政状況について、財政に関する統計データを使用して、班ごとに役割分担をして研究を進めています。前期は、大垣市役所から提供いただいた過去10年間の財政に関する統計を、類似団体（人口規模や産業構造が類似している自治体）と比較しながら分析することによって、大垣市財政の特徴を分析しました。具体的には、地方税や地方交付税等を中心に分析する歳入班。福祉関連・公共事業、教育等に関する費用について分析する歳出班。自治体が公共事業等を行うために発行する地方債を分析する公債班。自治体の財政状況を、客観的ないくつかの指標を用いて評価したうえで、各班が行っている分析の相互関係を検討する財政指標班の4つの班に分かれて研究しています。

・大変だったことは？

財政指標の定義や財政制度はくも複雑なので、それらを理解することに苦労しました。最初は、地方財政に関する用語集を作ることによって、用語を理解するところから始めました。その後、班ごとに役割分担をして、ひとりの研究を始めたのですが、分析が進まないと、他の班にも迷惑をかけてしまうので、メンバーはそれぞれ共同研究のプレッシャーを感じながら、取り組んでいたと思います。それに、ゼミの特徴として、留学生が3人いるのですが、日本人の学生でもなか



藤井ゼミ所属
山田 晃広さん
経済学科3年
市立岐阜商業高校出身

目標は財政白書の作成！

・研究をおして何か見えてきたものはありますか？

まだ、一定の財政データを分析した段階ですが、大垣市は他の自治体と比べて、地方税が安定的で、地方債の償還についても他の自治体と比較すると順調であり、福祉関連の施策にも重点をおいていることがみえました。今後の分析課題として、まず、地方税については、地域経済との関係が深いのでそこに注目して分析をしていく必要性が明らかになりました。また、福祉関連の施策については、子育て支援をはじめとして、大垣市が重点をおいている分野ですので、人口や世帯構造の変化など地域社会の状況をふまえて、施策の効果や意義についても分析し、そのうえで財政との関係について評価していく必要性があると考えています。

・今後の研究にむけて意気込みを聞かせてください。

財政データからわかる情報を前提に、大垣市の施策を分析・評価し、大垣市財政の現状と課題を明らかにしたいと思っています。そのためにも、財政現象を通して、大垣市の地域経済・地域社会の動きを把握することが大切だと思っています。最終的には、大垣市の「財政白書」もしくは、大垣市財政に関する研究報告書を作成する予定です。





陸上競技部 / 駅伝部

TRACK AND FIELD

第66回西日本学生陸上競技対校選手権大会 男子総合4位



徳島県鳴門市で開催された第66回西日本学生陸上競技対校選手権大会において、本学陸上競技部、駅伝部は男子総合4位と過去最高の成績を残しました。

特に大会最終種目の男子4x400mリレーで、初優勝を飾ることができました。この種目は5月に行われた東海学生陸上競技対校選手権大会でも優勝しましたが、今回の優勝でまさに実力で勝ち取った勝利であると証明できたと言えます。さらに、男子4x100mリレーで3位、400mで2位、円盤投で2位と表彰台へ上がる種目もあり、岐阜経済大学の存在感を充分見せつけた3日間でした。そして新たに、100m・400m・円盤投で全日本インカレの標準記録を突破し、現在、全日本インカレの出場者が個人が9種目、リレーが2種目となりました。

また、先日行われた第45回全日本大学駅伝対校選手権大会東海地区選考会で活躍した駅伝部員も1500mで7位、3000mで6位と大健闘しました。陸上競技部、駅伝部全体の底上げが確実にでき始めています。今後の活躍にも注目ください！



▲4x400mリレーの選手たち

●男子総合得点

- 1位 中京大学 117点
- 2位 関西学院大学 104点
- 3位 京都産業大学 49点
- 4位 岐阜経済大学 40点
- 5位 福岡大学 36点

●トラックの部

- 1位 関西学院大学 81点
- 2位 中京大学 46点
- 3位 京都産業大学 39点
- 4位 岐阜経済大学 31点
- 5位 大阪経済大学 26点

●フィールドの部

- 1位 中京大学 71点
- 2位 九州共立大学 28点
- 3位 鹿屋体育大学 24点
- 4位 関西学院大学 23点
- 5位 福岡大学 18点
- 11位 岐阜経済大学 9点



●男子4x400mR 優勝 <記録> 3分11秒08

- 川野 直哉(スポーツ経営学科1年 名古屋大谷高校出身)
- 田中 翔也(スポーツ経営学科4年 飾磨工業高校出身)
- 山本 智也(スポーツ経営学科3年 水口高校出身)
- 高橋 拓也(スポーツ経営学科3年 岐南工業高校出身)

●男子400m 2位 <記録> 48秒29

- 高橋 拓也(再掲)
- 全日本インカレ参加標準記録突破(準決勝47秒36)

●男子円盤投 2位 <記録> 46m69

- 山田 晃広(経済学科3年 市立岐阜商業高校出身)
- 全日本インカレ参加標準記録突破

7位 <記録> 45m07

- 亀井 浩平(スポーツ経営学科4年 伊勢工業高校出身)
- 全日本インカレ参加標準記録突破

●男子4x100mR 3位 <記録> 40秒34

- 山本 智也(再掲)
- 増田 貴(スポーツ経営学科3年 島田樟誠高校出身)
- 高橋 拓也(再掲)
- 加藤 慎也(スポーツ経営学科2年 桑名工業高校出身)

●男子100m 4位 <記録> 10秒55

- 増田 貴(再掲) / 全日本インカレ参加標準記録突破



硬式野球部

BASE BALL

第2回京滋・東海地区大学野球連盟交流戦 岐阜県選抜チームの強さを示す



▲トロフィーを手に喜ぶ伊藤選手

8月10日(土)、大学野球連盟間の相互交流と競技レベル向上を目的として昨年から始まった京滋・東海交流戦が京都府の太陽が丘球場で行われました。今年は岐阜県の6大学で選抜チームを編成し、交流戦2試合が行われ、本学からは学生4名と、随行団の団長として塚田勝総監督、コーチとして小森茂監督が参加しました。

【総評】
第1試合は岐阜県選抜が初回、鮮やかな先制攻撃で2点を先取すると、5回にも連打で1点を追加。投げては4投手のリレーで完封。3-0で勝利しました。
第2試合は中盤まで投手戦。5回に相手内野の敵失で出たランナーを確実に還し先制。その後も終盤に集中打で着実に加点。投手陣も第1試合同様、5投手の完封リレー。6-0で勝利し2連勝。岐阜県リーグのレベルの違いを見せつける結果となりました。

なお、この交流戦で本学の伊藤匠選手が MVP を受賞しました。レベルの高い岐阜県選抜選手の中でもひと際目立つ活躍を見せました。

【総評】

第1試合は岐阜県選抜が初回、鮮やかな先制攻撃で2点を先取すると、5回にも連打で1点を追加。投げては4投手のリレーで完封。3-0で勝利しました。
第2試合は中盤まで投手戦。5回に相手内野の敵失で出たランナーを確実に還し先制。その後も終盤に集中打で着実に加点。投手陣も第1試合同様、5投手の完封リレー。6-0で勝利し2連勝。岐阜県リーグのレベルの違いを見せつける結果となりました。

選抜された学生

内野手 伊藤 匠さん (経済学科4年 海星高校出身)
投手 比嘉 智哉さん (スポーツ経営学科4年 沖繩水産高校出身)
投手 渡邊 紮実さん (スポーツ経営学科3年 大垣日本大学高校出身)
外野手 近藤 祐太さん (スポーツ経営学科3年 静清高校出身)

【本学出場選手の個人成績】

伊藤 匠

第1試合、2番サードで先発出場(5打席4打数2安打)

- 第1打席 左中間三塁打
中継が乱れる間に先制のホームイン。
- 第2打席 遊ゴロ
- 第3打席 四球
- 第4打席 遊ゴロ
- 第5打席 中越え二塁打

比嘉 智哉

第1試合の3番投手として6回から登板。2イニングを投げて被安打2、無失点。危なげない投球をみせた。

渡邊 紮実

第2試合の4番投手として7回から登板。2イニングを投げて被安打2、無失点とこちらも危なげない投球内容。

近藤 祐太

第2試合、5番指名打者で先発出場(3打数0安打)



▲岐阜県選抜チームの選手たち



ボート部

BOAT

平成25年度国民体育大会 第33回九州ブロック大会ボート競技大会 3位入賞

7月20日(土)、21日(日)に平成25年度国民体育大会第33回九州ブロック大会ボート競技大会が遠賀川漕艇場で行われました。同大会には本学の学生2名が出身である沖縄県を代表して、成年女子シングルスカルと成年女子ダブルスカル2種目に出場し、両種目で3位に入賞しました。この結果から9月に東京で開催される第68回国民体育大会への出場権を獲得しました。

九州ブロック大会の感想と 国体への意気込み

出場種目：成年女子ダブルスカル



加納 貴子さん

(スポーツ経営学科3年 大野ゼミ/コザ高校出身)

今回の九州ブロック大会は、初めて会う人と一緒に試合に出るということで、最初は不安や緊張がありました。実際に会って試合に出てみると、初めてとは思えないくらいお互いに漕ぎやすいと感じて、タイムも悪くありませんでした。そこで初めて国体がねえと思えました。予選、敗者復活、決勝とレースの回数を重ねるといって、いざいざ漕ぎが良くなっている、決勝3位で国体出場を決めることができました。

本国体では、もっと2人の息を合わせて九州ブロックよりも良いタイムを出せるように、お互い苦手としている前半から積極的に攻めるレースをしたいです。今、沖縄はボート人口がすごく少ないので、私たちが活躍して沖縄のボート普及に少しでも力になれるように頑張りたいです。

出場種目：成年女子シングルスカル

新里 杏菜さん

(情報メディア学科3年 井戸ゼミ/コザ高校出身)



取ることができました。

レースでは、自分の課題である前半から飛び出すということができ、他の選手と差をつけることができました。後半は波に苦戦し、他の選手に越されてしまいました。波風がひどく、何度もバランスを崩してしまっていたので、どんなコンディションでもバランスを保ち、しっかりと漕げるように今後の練習で徹底していきたいと思っています。

国体には強い選手がたくさん出場すると思いますが、自分の漕ぎが力いっぱい発揮できるように頑張って昨年よりよい結果を順位をつけたいと思っています。



バドミントン部

BADMINTON

平成25年度岐阜県学生春季バドミントン選手権大会 男子団体準優勝・男子ダブルス優勝

「平成25年度岐阜県学生春季バドミントン選手権大会において男子ダブルスで3年次と1年次の吉浦 岡本ペアが優勝、4年次の中島 齋藤ペアが準優勝を勝ち取りました。



吉浦 真志さん

(経済学科3年 今井ゼミ/富山商業高校出身)

キャプテン

私たちバドミントン部は、平成25年度岐阜県春季大会で、男子団体と男子シングルスで準優勝、男子ダブルスでは優勝・準優勝という結果を残すことができました。しかし、私は正直、この結果には納得がいていません。今、私たちの一番の目標である、東海大会で1部に昇格するためには、大会の大小に関係なく、常に自分を保ち、力を出しきれない「強い選手」にならないべきです。今後の抱負としては、秋季県大会で団体、シングルス、ダブルスの優勝と、東海大会で団体1部昇格を目指したいと思っています。

応援よろしく
お願いします。

男子団体戦 準優勝

男子ダブルス

優勝 吉浦 真志(経済学科3年 富山商業出身)
岡本 雅基(スポーツ経営学科1年 龍谷富山高校出身)
準優勝 中島 翔太郎(経済学科4年 富山商業高校出身)
齋藤 侑気(スポーツ経営学科4年 池田高校出身)

男子シングルス

準優勝 吉浦 真志(再掲)



サッカー部

SOCCER

第60回東海大学サッカー選手権大会 悔しさをバネに天皇杯・リーグ戦に臨む

白柳 慶太さん
(スポーツ経営学科4年 高橋正)ゼミ/浜名高校出身)
5月11日(土)に開幕した、第60回東海大学サッカー選手権大会。総理大臣杯の予選を兼ねる本大会で、2年連続の総理大臣杯出場に向け、チーム全体で気持ちを高めて臨みました。

初戦はシードとなり、2回戦からの試合でした。相手は名古屋学院大学。絶対に負けられない試合で、最後の年にかかる4年生がゴールアシスト共に結果を残し、3対1で勝利しました。



3回戦目は、今季2度目の対戦となる常葉大学浜松キャンパス。全大会出場の場合、常連校ではありますが、リーグ戦前期では1対1の引き分けに終わっていた相手だけに、今度こそ勝ちたい相手でした。結果は、前戦同様90分では決着がつかず、最後には選手層の厚さや体面が大きく突き放され、1対3と惜しくも敗れました。

総理大臣杯
連続出場は途切れてしまいましたが、天皇杯とリーグ戦へ大きな収穫のある大会でした。

初戦	シード
2回戦	vs.名古屋学院大学
前半	2-0
3分	→4年: 沢村恭兵(アシスト 4年: 篠原達巳)
38分	→4年: 沢村恭兵(アシスト 4年: 勝野賢人)
後半	1-1
68分	→4年: 堀岡悠貴(アシスト 4年: 篠原達巳)
合計	3-1
3回戦	vs.常葉大学浜松キャンパス
前半	1-1
23分	→4年: 勝野賢人
後半	0-0
延長前半	0-1、延長後半 0-1
合計	1-3

公開授業を実施

7月5日(金)と7月24日(水)、経済学部樋下田邦子准教授が担当する「地域福祉論」の「コミュニティサービス」の講義において、公開授業を実施しました。地域福祉論の講義は、経済学科と公共政策学科の2年生約25名が受講。公開授業ではグループに分かれた学生たちが、それぞれ設定した課題についての研究報告をしました。

日本の里親制度や高齢者の地域づくりへの参加、障がい者の雇用についてなど、現在の地域福祉の問題点を挙げ、その解決策やこれから自分たちがやりたいことなどを紹介しました。

また、「コミュニティサービス」の講義では、受講生他、学内教職員や外部機関の方を含む約20名が参加。樋下田准教授によるボランティア活動の3つの力や潜在的な学習力についての説明、学生たちによる学内における「コミュニティ問題」や「学内におけるタバコ問題」の研究報告を行いました。

学内における「コミュニティ問題」については、本学と岐阜大学におけるヒアリング調査や実地調査を行い、課題を見つけ、本学をより良くするための課題解決策の提案や今後の活動について説明がありました。例えば、学内で全面禁煙を定着させるためには、ステップを踏んでいくことが必要で、学生がクリーンアップ活動に参加することや、機会を与えたうえで罰則をつけることなどが挙げられました。

報告後には、聴講した先生方から感想をいただき、学生部長の山田武司教授からは、「学生自ら問題意識を持って調査をして、課題解決策を見つけてくる」とのことには大変頼もしいですね。」との期待の言葉をいただきました。



コーチング演習(陸上競技)にゲスト講師をお招きしました。

7月18日(木)、岸順治准教授が担当する「コーチング演習(陸上競技)」にゲスト講師として、久我アレキサンデル氏をお招きしました。

久我氏は、本学経営学部スポーツ経営学科の卒業生であり、陸上競技800mにおいて、昨年の日本選手権および国民体育大会において入賞するなど選手として活躍しながら、本学陸上競技部の中距離コーチとして指導にも携わっています。現在は愛知県立大学大学院で母国であるペルーにおけるスポーツ教育をテーマに研究しています。この研究の資料収集のために母国に帰国した折、陸上競技の大会に出場しました。その大会は、今年6月に行われたペルー選手権でしたが、見事800mで優勝し、ペルー代表として南米選手権(ロンドン)に出場し、準決勝まで進出しました。



講義当日は「トレーニングエフェクト」を考える「消費エネルギーを抑える技術」として、800mの中距離走において同じ走る動作の中でエネルギーを節約することが効率よくタイムを上げる方法であると説明。エネルギーを節約するには、適切な走動作の作用と走動作における筋の収縮時間の最小化が必要であると解説し、走動作で着地している足と逆足の浮遊時の「脱力(筋弛緩)」でできることを紹介しました。「脱力」という技術には練習方法があることで、実際にそのやり方などを映像を使って説明しました。

久我氏は、講義の最後に「今日の講義で、少なからずなにか得てくれればと思います。それぞれに自分たちが頑張るステージがあると思うので、これからの活躍を期待しています。」と学生たちにエールを送りました。

学生たちにとっては、先輩であり、アスリートであり、陸上競技の研究者である久我氏の講義は、身近であり説得力のあるものであったと思われまます。今回の講義で、大きな刺激を受けたことは、学生の更なる成長につながることを期待されます。

若き研究者たちの研究発表

大垣情報ネットワーク研究会を開催

6月28日(金)に2013年度、第1回大垣情報ネットワーク研究会が開催され、研究報告が行われました。ソフトウェア共同研究室からは4名の学生研究員が各プロジェクトの発表をすることとなり、発表に向けて準備を進めてきました。

当日は、IT企業の方による研究報告があり、主にビッグデータの活用についての発表が行われ、その後、ソフトウェア共同研究室内の学生研究員が、自分の担当しているプロジェクトについて研究報告しました。限られた時間の中で、どうすれば相手に解かりやすく伝えられるか、どうすれば興味を持ってもらえるかなど、色々と試行錯誤してまとめるのは大変でしたが、こつこつとした場所で開催される機会はあまり無いので、今回の発表は貴重な経験になりました。



地域の活性化を目指して

江崎 光治さん

(情報×メディア学科3年 井戸せし 善陽 龍ノテア高校出身)

私が発表したプロジェクトは、地域参加型デジタルアーカイブの開発についてです。インターネットが広く普及した現代で、ネットを通じて地域の人々が地域の文化財を発見し、その情報を保存し発信するといった地域住民参加型のデジタルアーカイブが進展しています。これは世代を超えた地域住民同士の交流が可能で、地域の絆を深める方策として期待されています。

本システムはそこにあるモノ自体に情報を与えることで、リアルタイムで情報の閲覧が可能になります。またスマートフォンで本システムを利用することで、カメラを通して風景を見たときに、画面上に昔の風景や歴史を表すことができます。これを利用して、地域活性化を進めることが本プロジェクトの目的です。



フレッシュユマンエクスカーションを開催

毎年、学びへの動機付けと学生間の親睦を深める機会として、新入生を対象に行っている「フレッシュユマン・エクスカーション」。今年は、経済学部では昨年までと趣向を変えて、基礎演習(ゼミ)単位で企画し、ゼミごとに散策テーマやルートを検討して実施しました。

そして、事前学習と事後学習にはグループワークを取り入れ、ゼミ内でのコミュニケーションを活発にさせました。全てのゼミの企画が終了した際には、「経済学部フレッシュユマン・エクスカーション報告会」を行い、それぞれのゼミが企画・実施した内容について報告しました。

新家ゼミ

新家ゼミでは、2日間に渡って見学を行いました。

○5月1日(水):大垣の歴史・文化施設

(大垣城、郷土館、守屋多々志美術館、奥の細道むすびの地記念館)

○6月5日(水):ソフトピアジャパン

(センタービル、大垣市情報工房)

大垣市の文化、歴史施設などを見学し、この地域について学ぶとともに、これらの施設の観光資源としての発信力、また、市の活性化にどのように活用されているかを調査・見学しました。特に、17先進都市を標榜する大垣市が、このような施設に17をどう活用しているか、17と歴史文化施設との関連から見た視点で調査見学を行いました。

ゼミ生にはタイからの留学生、チッカモンストップムさんがいて、興味深く日本の施設を見学していました。後日行われたフレッシュユマンエクスカーション報告会では、タイと日本の違いを報告しました。



▲ソフトピアジャパンでゼミ生の皆さんと(一番左がストップムさん)

焼田ゼミ

焼田ゼミでは、5月〜7月にかけてフレッシュユマンエクスカーションを実施しました。

フレッシュユマンエクスカーション初日は、大垣駅から大垣城方面を散策しました。その後は、大垣駅周辺の自噴水めぐりをして、6月5日(水)に大垣市内にある枡工房枡屋(大橋量器さん)で枡作り体験をしました。

枡作りは皆が初めての体験でしたが、自分の枡を作るところで大垣の名産品である枡を、より身近に感じることができました。体験では、四面の角が直角になるように調整したり、底板を付ける工程では釘を真・直ぐに打つたりしなければなりません。釘を打つのが得意な学生が真・直ぐに釘を打つコツを教えてくれるなど、和気あいあいと進めていました。

最終日には、再び大垣市内の6つの自噴水を巡って皆で水の飲み比べをしました。この水も冷たくて美味しく、実際に水を飲んでみることで大垣市が水の都であることを実感することができました。

このフレッシュユマンエクスカーションは、「どこへ行き、何をするか」を決める企画の段階から学生主体で進められ、自噴水の飲み比べも学生から提案されたアイデアです。皆で協力して進めることで学生同士の交流が深まると同時に、フレッシュユマンエクスカーションを通じて大垣市について知ることができたのではないかと思います。



▲完成した枡

自校教育

経営学部では1つの企画として、本学では初の試みとなる「岐阜経済大学を知るセミナー」と題して自校教育を3つのゼミが行いました。その他にも、卒業生を講師として招き、ミニゲームや講義を行うゼミもありました。



▲飯田覚士さんについての説明を聞くゼミ生

6月12日(水)に本学初となる自校教育を実施しました。学生たちはまず理事長室に入り、浅野副理事長から本学の創立経緯や教育理念、卒業生などについて説明を受けました。本学卒業生には元ボクシング世界チャンピオンの飯田覚士さんがいるのですが、後援会から飯田さんに贈られたガウンが飾られていました。学生たちは普段入ることのできない理事長室での講義に、少し緊張した面持ちながらも興味深く説明を聞いていました。

次にキャリア支援課へ移動し、釣餌キャリア支援課長から、4年後のキャリアに向けて1年生でやっておくべきことのアドバイスと、キャリア支援課の役割について紹介がありました。資料として白紙の自己紹介書が配られ、自分ならどんなことが書けるか、考えながら説明を聞いている様子でした。

最後に野松経営学部長から「経営学部で何を学ぶか」をテーマに、改めて学科紹介がありました。学生たちは、これからどんなコースを選択していくかを考えながら説明を聞いていました。

自校教育を受けた学生からは、様々な話が聞けて、とてもためになりました。私は教員になりたいので、紹介のあった課外体育サポーター制度(市内小中学校の体育授業の補助活動を行う制度)などにも積極的に参加したいと思いました。と感想がありました。



▲飯田覚士さんのガウン

大野ゼミ

大野ゼミは4月17日(水)にフレッシュユマンエクスカーションを実施しました。本学経営学部スポーツ経営学科の卒業生で、現在大阪体育大学大学院でスポーツマネジメントを学んでいる棟田雅也さん(本誌5ページを参照)をゲスト講師として招き、ミニゲームと講義を行いました。

ミニゲームは、「自己紹介ゲーム」(3と3の倍数を言ったらダメゲーム)などを行い、受講生の皆で盛り上がりました。後半の講義では、棟田さんの大学4年間を振り返り、計画的に4年間を過ごす必要性、学外、海外などに出て自分の視野を広げる必要性、スポーツ経営学の楽しさなどを受講生に熱く語り、受講生も熱心に聞き入っていました。

当日は大野ゼミの4年生も数名参加して場を盛り上げてくれました。



▲講義をする棟田さん(卒業生)

学生の就職活動
状況報告

4年次生は、3年次の秋より就職準備を始め、12〜2月の就職説明会に参加して業界・企業研究を深め、3月から就職試験が始まって4月以降に内々定が出始めました。7月末日現在の内々定率は、昨年度より5ポイントアップしています。就職を取り巻く環境は、景気対策により大手企業を中心に採用意欲は緩やかに回復基調にありますが、まだまだ不透明な状況です。企業の採用基準は、コミュニケーション能力の高い人材及びグローバル人材を求める等、重視が一層強まり依然厳しい状況が続きます。第一志望の業界に固執せず、大手企業の関連中堅企業や中小企業へも視野を広げるなど、柔軟かつ現実的な就職活動をしてください。企業の採用活動は長期化しています。最後まで諦めない「行動する」この2点をアドバイスします。就職、進路について悩みを抱えている学生は、キャリア支援課へぜひご相談ください。

内々定学生の報告

西濃運輸株式会社

西尾 亮太さん (経済学科4年 今井ゼミ 豊丘高校出身)

私は、就職活動をするうえで何をしたいのかも解らず、とりあえず説明会に参加するだけでした。そこで岐阜経済大学で行われている就職特別講座(今校塾)に参加しました。就職特別講座は、就職アドバイザーと4年次の内定者であるチューター4名による合同を含む講座です。この講座では、面接、グループディスカッションなど一人ではできないことを集中的に取り組みました。なにより就職活動に熱心に取り組んでいる学生が集まっているので、情報が交換できたり就職活動の不安が自信に変わり、励みになりました。

最初は漠然と12月から始まる合同説明会、2月から個別説明会に参加し、企業の説明を受けていく中で業種を絞っていききました。全く考えてもいなかった企業でも、企業の中に多く職種があることを知り、視野を広くすることができたと思います。採用試験においても多くの企業にチャレンジしました。多くの企業を

受験したことで、次第に面接の対応も落ち着いたものになり、筆記試験においても、一度出た問題に当たるようになりました。

そんな中、私は西濃運輸(株)を第一志望に考え試験を受けました。企業の明るさや業界トップクラスである点、効率的なモノの流れを創り出す物流業界の重要性に魅力を感じたからです。そして総合事務職として様々な部署を経験しそれぞれの立場に立って仕事をしたいと大切に思っていました。試験は大変でしたが、西濃運輸(株)より内々定をいただくことができました。就職活動は、早めに始めることで経験が積み、希望する企業への対応力がついていきます。3年次の方には、就職特別講座の活用と、早いスタート、広い視野で就職活動することをアドバイスします。



とびあ浜松農業協同組合

上田 杏美さん (スポーツ経営学科4年 竹内ゼミ 浜松湖東高校出身)

私は12月1日の就活解禁日に開かれた就活支援プログラムの一つ、就職特別講座(今校塾)に参加し、就活のスイッチが入りました。就活のいろはを教えてください。不安でいっぱいだった就活に対して、力強い一歩になりました。また今校塾のメンバーはお互いに励まし助け合うことができ、みんながいるという安心感が繋がっていったように思います。

私は業界を絞っておらず、地元で就職でき、なおかつ女性が働く環境が整備されている企業を中心にエントリーをして、気になった企業の説明会に行っていました。最初の合同説明会では独特の緊張感と他の就活生の真剣な眼差しに圧倒されたことを覚えています。あとは地元企業ということで、Facebookなどを利用してOGを探し、積極的にOG訪問や支店訪問を行いました。とにかく企業側に名前を覚えてもらうこと、それだ



けで面接の時などかなり印象が変わってくると思います。その成果で第一志望の最終面接では「今まで何回もありがとう」とその場で内々定を頂くことができました。幸い2社から内々定を頂くことができました。どちらに行くかとても悩みましたが、最終的には「地元に戻りたい」という就活を始めた当初の希望により、JAとびあ浜松に決めました。就活中は辛いこともたくさんありましたが、友人やキャリア支援課の方たちに思いっきり頼って、支えてもらって乗り越えることができました。就活に「早すぎた」ということはないと思います。行動するなら早いほうが周りに差をつけられると思います。私にとって就活は、本当に自分の大きな成長の機会となりました。

インターンシップを実施

3年次生は、8月から9月にかけて、インターンシップ生として企業・自治体の就業体験をします。今年度のインターンシップは、左記の企業・自治体にお世話になります。

2013年度インターンシップ実習先一覧

- 岐阜県庁
- 大垣市役所
- 大垣公共職業安定所
- 関公共職業安定所
- SMB C 日興証券(株)
- 大垣共立銀行
- 大垣信用金庫
- 株大光
- 南川崎商店
- 株岐阜冠婚葬祭互助会
- 株近鉄ホテルシステムズ岐阜都ホテルコパン
- (株)サスポ・ヨシオカ
- 株十六銀行
- 東新土地(株)
- 株中村不動産
- 西美濃農業協同組合
- 株日本旅行
- ネットトヨタ福井(株)
- ヒロタ(株)
- ピライシステム(株)
- 矢橋工業(株)
- 株立コンビニーターサービス(株)
- ラブリック(株)

● 2013年度(2014年3月卒業予定者)主な内々定先一覧 (五十音順)

建設	セキスイハイム中部(株)・長谷川体育施設(株)・三菱電機プラントエンジニアリング(株)
製造	損斐川工業(株)・エム・ティ・ケー(株)・大塚産業グループ・コマニー(株)
情報通信業	(株)インフォファーム
運輸郵便	(株)上組・西濃運輸(株)・日本郵便(株)・濃飛西濃運輸(株)・福山運輸(株)
卸売	高瀬物産(株)・ダンロップタイヤ中部(株)・東邦ガスリビング(株)・中北薬品(株)
小売	生活協同組合コープぎふ・(株)ドン・キホーテ・(株)パロー・(株)ユニクロ
金融	(株)大垣共立銀行・(株)沖縄銀行・関信用金庫・高山信用金庫 東海東京証券(株)・とびあ浜松農業協同組合・三重中央農業協同組合
サービス	(株)エイチ・アイ・エス・(株)コパン・太陽建機レンタル(株)
公務員	岐阜県警察官

(2013年8月19日現在)



経営学部

しの だ とも ゆき
篠田 知之 講師



このような環境で大学院時代を過ごしたため、私自身も、現場に役立つ研究をモットーにテーマを設定しています。これまでに行ってきた研究を振り返ると、「トライアスロン選手の体力特性の研究」・持久力の指標である「最大酸素摂取量の研究」・レスリング選手の研究」・トレーニングに関する研究」など様々です。指導教官は自分の研究室の特徴を「八百屋」と表現していましたが、私もまさに八百屋のようにたくさんのテーマを扱ってきました。これはその時々現場のニーズに合わせて研究を行ってきた結果であり、「お前の専門は何だ?」と言われることもありますが、これはこ

私の研究分野は、スポーツ科学の中の体力トレーニング分野というもので、運動時の体の働きについて研究する運動生理学や身体の動作を数量的に分析するバイオメカニクスなどを親学問とし、体力の向上を図るために効果的なトレーニングを考える分野です。実践を重視する分野であり、「スポーツ現場をよく知った科学者、スポーツ科学をよく知った現場の指導者にならなさい」と指導教官によく言われました。そのため、プロフィールの欄にも書いたように、大学院時代にも研究室にいたことが少なく、トライアスロンのトレーニングばかりしていました。

研究テーマと言えるかはわかりませんが、最近では特に、スポーツの現場に体力測定を普及していくかについて考えています。人は体調を崩して病院へ行った時には、血液検査やレントゲンを行い、どの部分が悪いのか原因を突き止めてから、治療を行います。スポーツでも闇雲に練習をすればよいという時代は終わりました。体力測定によって、自分やチームの長所と短所を確認し、競技力向上の方策を考えることが、これからの時代では重要です。近年では、ようやくトップレベルの選手の中で、体力測定の結果をもとにトレーニングを考えることが常識となってきましたが、大学、高校レベルではまだ普及しているとは言えません。取り入れない理由を指導者に聞くと、「測定をする設備がない」、「時間がもったいない」などを挙げられますが、アイデア次第で高価な道具を使わなくても、短時間で可能な測定もあります。そういったアイデアを現場に広めつつ、体力測定をトレーニングにつなげる有効な方法について考えていきたいと思っています。

れで自分らしいのではないかと考えています。

PROFILE

1976年新潟生まれ。小さいころから身体を使った遊びが大好きで、小学校低学年のころは「キャブテン翼」にあこがれ毎日サッカーボールを蹴っていました。しかし持病の喘息が悪化したため、小学4年生時にサッカーを断念し、代わりに喘息に良いとされる水泳を始めました。また、雪深い地域で育ったため、冬期はクロスカントリースキーを小学4年生から高校3年生まで行っていました。

中学校から高校への進路選択において、一時はスキーをやめ、父親、兄と同じ機械設計の道へ進むため地元の高専専門学校への進学を考えましたが、最後のシーズンとなるはずだった中学3年のシーズン直前に体育の授業で足首を骨折し、スキーが不完全燃焼となってしまいました。そのため高校進学先を変更して、スキーを続けることに。高校でスキーを続ける中で、どのようなトレーニングをすれば効果的に体力を高められるかを考えるようになり、将来トレーニングの研究者になることを決意。

1年間の浪人生活を経て(高校3年生の冬までスキーをしていたため、センター試験を受けられませんでした)、筑波大学体育専門学群に入学。スキーの夏場のトレーニングとして行っていた、水泳や自転車、ランニングを組み合わせたトライアスロンを競技として取り組む。トレーニングについて自分で勉強したことを、自分の体で試すといったことを繰り返していました。その後、同大学院体育科学研究科(一貫性博士課程)に進学しましたが、研究よりも実践を重視した結果、学位をとれず単位取得後退学。

2004年から8年間、岐阜県スポーツ科学トレーニングセンターフィジカルトレーニング専門員として、バレーボール、バスケットボール、野球など様々な種目において、競技力向上のためのトレーニングの指導を行ってきました。

2012年4月本学着任。運動生理学、トレーニング演習(フィジカル)、水泳などを担当。



近著紹介



アベノミクスと日本の論点 成長戦略から成熟戦略へ

安倍政権の経済政策はアベノミクスと呼ばれ、その効果をめぐって大きな注目を集めています。本書は、そのようなアベノミクスを批判的に分析・考察し、日本と地域社会が、その歴史やアイデンティティを踏まえて再生・発展する途とは如何なるものであるかを問い、提案するブックレットです。第1部は「アベノミクスの時代認識を問う」、第2部は「脱成長で地域の再生」となっており、高橋教授は第1部の第2論文を執筆しています。

高橋 勉 教授
共同執筆
農文協
2013年5月



流通動態と 消費者の時代2

本書は、日本流通学会設立25周年記念出版プロジェクト(全5巻)の第2巻です。流通活動の動態に対応して変化する消費生活をより現代的な視点から総合的に分析しうる理論的な枠組みを示すと同時に、多様な消費生活の現実的なテーマにアプローチすることを目的として執筆されています。したがって、これまでの流通研究やマーケティング研究ではほとんど取り扱われることがなかった領域にも分析の射程を広げています。

中西 大輔 講師
分担執筆
白桃書房
2013年5月

五月祭で仲間づくり

5月28日(火)と29日(水)の2日間、学生同士の親睦を目的として、五月祭(学生のスポーツ大会)が体育館で開催され、40チーム(約340名)の学生が参加しました。

学生たちはチームごとに、大会種目である「ドッチビー」で競い合い、優勝を目指して汗を流しました。大会では、衣装を合わせるチームやメガホンで応援するチームなどがあり、団結力が感じられました。

1日目には予選が、2日目には決勝が行われました。優勝決定戦は、沖縄県人会で結成された「チリチリ探検隊」と福地ゼミの「福地ゼミⅡA」で行われ、なかなか勝者が決まらず、延長戦に突入するなど大いに盛り上がりました。そして、その接戦を制したのは「チリチリ探検隊」のみなさんでした。

表彰式終了後は、食堂北テラスでバーベキュー大会を行い、参加者それぞれがお互いの健闘を讃えあい、チーム内だけでなく、チームを超えて親睦を深めていました。



▲ドッチビーの様子



▲五月祭のあとは恒例のバーベキュー大会



キャンパス 彩々 Campus Saisai

不破高生 大学の講義を体験

6月25日(火)、岐阜県立不破高等学校・岐阜経済大学 高大連携事業「学び塾」を開催しました。

同高校と本学は、4月23日(火)に地域社会を支える人材育成をめざし、高大連携教育協定を締結しました。今回が第1回目の連携事業で、高校生の皆さんに大学の講義を体験してもらい、専門的な知見に触れ、大学進学の意味を考える機会を提供するとともに、本学においてキャンパスの雰囲気を感じながら、大学の学びに触れてもらいました。

参加したのは不破高校の2年生96名で、大学の講義を聴いて「難しかったけれど、楽しかった」、「進路選択の参考になりました」という感想をいただきました。第2回目は9月24日(火)に行われる予定です。



▲高校生に名刺作成ソフトの説明をする井戸伸彦准教授

社会人のための大学院体験授業を開催

本学大学院では、2001年4月の開設以来、企業経営の中核を担う多くの人材を輩出してきました。そして、地域の方にも本大学院の授業を知っていただくための機会として、「社会人のための大学院体験授業」を毎年開催しています。受講生の方は、企業経営コース、都市・地域政策コース、会計・税務コース、経営情報コースの4コースから、研究・学習目的に合わせたカリキュラムを選択し、実際の授業を体験します。

今年度も7月8日(月)から、前期「社会人のための大学院体験授業」を開始。初日は企業経営コースの「経営学特論」の講義が行われ、体験者の方を含め9名が受講しました。講義では、システムのあり方についてのアーキテクチャ(基本設計構想)とビジネスモデルの関係、組織能力とアーキテクチャなどの関係について考察しました。

体験者の一人である早崎さんからは、「少数の大学院生で直接顔も見え膝を交えての和気あいあいの中にも真剣な授業、今回は岩坂先生からテーマを与えられ院生が研究しまとめ、そ

れをそれぞれが発表し、先生より講評をいただくという授業でした。テーマ(アーキテクチャ)も身近なもので、時代の変遷、要求をとらえたものであり、新しい発想を学ぶことができました。また、院生の中には中国人の留学生もいて、発表のなかで中国と日本での文化や考え方の違いを知ることができました。短時間ではありましたが、大変有意義で貴重な体験学習でした。」と感想をいただきました。



▲大学院の講義の様子

地域のための大学として生涯学習の機会を提供 かがやきカレッジを開催

6月4日(火)から大垣市・本学共催により、社会人を対象に生涯学習の機会を提供する「かがやきカレッジ2013」前期講座が岐阜経済大学で始まり、地域住民の方約80名の参加がありました。かがやきカレッジ(前期)では、本学教員3名が担当する6回の講座と、共立総合研究所が担当する2回の講座を実施しました。

前期講座の全体テーマは「生活と経済」で、私たちが現代社会で生きていくにあたっては、健康を維持すること、そして身の回りの経済について知ることは必須といえます。この2点を本講座を通して、楽しく、そして分かりやすく読み解いていき、客観的な視点と確かな知識を抛りどころに、より良い地域社会のあり方を受講者の方々と考えていきたいと思ひ企画しました。

第一回の「never too late 体を鍛えるのに年齢制限はない!」と題して、加齢による体力や筋力の低下を「貯筋(ちよきん)」により少しでも遅らせることを、実際のトレーニングを交えて説明する講義を始め、「わが国の株価はいかにして形成されてきたか」、「大正バブル経済の時代-第一次世界大戦と日本-」などを本学教員が解説しました。また、共立総合研究所の研究者の方には「日本経済の現状と

これから」、「モノづくりの地で考える観光ビジネス」など多岐にわたる分野における講義を実施していただきました。

第1回の講義を受講された方からは、「理論的でもとてもよく分かった。年だからと思っていたが、年齢制限はないという事を学び、希望がもてたのと頑張ろうという気がおきた。」と感想をいただきました。

かがやきカレッジは後期も開講されます。詳しくは16ページをご覧ください。



▲第一回目の講義を担当する篠田知之講師

学生主催 国際異文化交流会を開催

7月10日(水)、スチューデントプラザにおいて学生主催による国際異文化交流会が開催されました。この交流会は今年度のユニークプラン(本学独自の研究調査助成制度)に採択された学生たちによる企画で、普段関わりの少ない留学生と交流する機会をつくり、外国の友人を増やすことを目的としています。

参加した学生たちは自己紹介をしたり、自分の好きな漢字を色紙に書いて、お互いにプレゼントしあったりしていました。学生たちは終始笑顔が溢れ、新しい友人との会話を楽しんでいました。

そして、お互いを知ったあとには、本学体育館に移動し、ドッチビーで留学生とふれあいました。この企画は、ボランティア・ラーニングセンターに所属する学生が企画したもので、参加した学生たちは汗を流しながら、白熱した試合を展開していました。短い時間での交流でしたが、学生同士の新しい絆が芽生えたことと思います。参加した留学生は、「新しい

友人ができて嬉しかった。ドッチビーも楽しかったです。」と感想を語ってくれました。



▲自己紹介用のホワイトボードを作成中

東京都及び東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会と協定を締結

大学との連携は、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動を実現させるにあたり、大学、東京都及び東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会がそれぞれの資源を活用し、相互に連携・協力体制を構築することを目的としています。

今回は、82大学がこの協定を締結しました。本学も9月7日(土)のオリンピック・パラリンピック開催都市決定までの間、招致活動に全面的に協力します。



(2)消費収支計算書

「消費収支計算書」は資金の移動を伴わないもの(現金の出入りの他に消費していくもの)として、減価償却額や退職給与引当金繰入額などを計上し、当該会計年度の消費収入及び消費支出の均衡状態を表したもので、学校法人の経営状況を示し、企業会計の「損益計算書」に当たるものです。学校法人は、安定的かつ持続性保持のために収支均衡を図る観点から企業会計とは異なる処理をしています。消費収支計算書において、基本金組入額(資産)を消費収入から控除した額を消費支出に充て、収支バランスをみるという点が学校法人会計の特徴です。消費収支計算書は、収支科目の多くが資金収支計算書の収支科目と共通していますので、消費収支固有の内容について主なものを説明します。

①収入の部

消費収入の部では「学生生徒等納付金」から「雑収入」までを帰属収入とします。帰属収入は学校法人の負債(返済義務のない収入)とならない収入のことです。従って資金収支計算書の収入から資金の動きだけを示す「前受金収入」、「その他の収入」、「資金収入調整勘定」等は除かれます。

〔寄付金〕

一般寄付金の他に団体、個人から寄贈された図書等331点、94万円を現物寄付金として計上しました。

〔資産売却差額〕

平成20年度に評価替えをした有価証券が早期償還したことによる面との差額及び有価証券の売却益2億6,819万円を計上しています。

〔基本金組入額合計〕

教育研究の維持・充実に必要な資産(校地、校舎、機器備品、図書等)を継続的に保持するために、帰属収入から組入れた(控除した)金額です。平成24年度は、4号館及び図書館空調の更新、課外活動用機器や図書購入額から処分額を控除した結果、645万円の組入れとなりました。

②支出の部

消費支出の部では、施設の建設費や機器備品・図書等の資本的支出に充当する額(基本金組入額)を控除し計上します。従って資金収支計算書の

支出科目から「施設関係支出」、「設備関係支出」、「その他の支出」等を除きますが、消費支出として「教育研究経費」及び「管理経費」には各々減価償却額を加算しています。減価償却額は建物、機器備品などの固定資産の当期償却額を計上しています。

〔資産処分差額〕

固定資産(建物、機器備品、図書等)の除却処分差額97万円を計上しました。

消費収支計算書 平成24年4月1日～平成25年3月31日まで

科 目	平成24年度	平成23年度	前年度比
消費収入の部			
学生生徒等納付金	1,213,107	1,239,194	△ 26,087
手数料	21,214	22,273	△ 1,058
寄付金	13,115	14,562	△ 1,447
補助金	260,893	261,495	△ 601
資産運用収入	148,453	106,355	42,098
資産売却差額	268,193	0	268,193
事業収入	44,599	44,874	△ 275
雑収入	65,868	46,567	19,301
帰属収入合計	2,035,446	1,735,323	300,122
基本金組入額合計	△ 6,452	△ 357	△ 6,095
消費収入の部合計	2,028,993	1,734,965	294,027
消費支出の部			
人件費	1,067,682	1,041,435	26,246
教育研究経費	839,314	850,962	△ 11,648
(内減価償却額)	206,566	203,851	2,714
管理経費	200,696	226,267	△ 25,571
(内減価償却額)	32,952	34,263	△ 1,310
資産処分差額	975	1,736	△ 760
消費支出の部合計	2,108,668	2,120,402	△ 11,733
当年度消費支出超過額	79,675	385,436	△ 305,761
前年度繰越消費収入超過額	1,420,373	1,805,810	△ 385,436
翌年度繰越消費収入超過額	1,340,698	1,420,373	△ 79,675

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、(単位 千円)
合計など金額が一致しない場合があります。

〔設備関係支出〕

教育研究用図書、陸上競技場写真判定機等備品購入が主な支出で2,251万円となりました。

〔資産運用支出〕

早期償還等を迎えた有価証券の運用替え等13億26万円です。

資金収支計算書 平成24年4月1日～平成25年3月31日まで

科 目	平成24年度	平成23年度	前年度比
収入の部			
学生生徒等納付金収入	1,213,107	1,239,194	△ 26,087
手数料収入	21,214	22,273	△ 1,058
寄付金収入	12,173	11,720	453
補助金収入	260,893	261,495	△ 601
資産運用収入	148,453	106,355	42,098
資産売却収入	501,105	425,000	76,105
事業収入	44,599	44,874	△ 275
雑収入	65,813	44,964	20,849
前受金収入	225,849	224,274	1,575
その他の収入	1,104,534	227,837	876,697
資金収入調整勘定	△ 297,987	△ 338,328	40,340
当年度収入の部小計	3,299,756	2,269,660	1,030,096
前年度繰越支払資金	2,168,753	2,398,846	△ 230,092
収入の部合計	5,468,510	4,668,506	800,003
支出の部			
人件費支出	1,090,506	1,082,221	8,284
教育研究経費支出	632,759	647,004	△ 14,244
管理経費支出	167,835	192,152	△ 24,317
施設関係支出	13,650	52,117	△ 38,467
設備関係支出	22,514	48,338	△ 25,823
資産運用支出	1,300,264	423,102	877,161
その他の支出	53,652	94,386	△ 40,734
資金支出調整勘定	△ 34,463	△ 39,569	5,106
当年度支出の部小計	3,246,719	2,499,753	746,966
次年度繰越支払資金	2,221,790	2,168,753	53,037
支出の部合計	5,468,510	4,668,506	800,003

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、(単位 千円)
合計など金額が一致しない場合があります。

(3)貸借対照表

「貸借対照表」は年度末3月31日における資産、負債及び基本金等の状況を表したものです。

資産の部の合計は、139億783万円となり、前年度末に比べて9,902万円減(0.7%減)、負債の部の合計は、8億6,298万円となり、前年度末に比べて2,580万円減(3.0%減)、基本金の部は、117億414万円となり、前年度末に比べて645万円の増加となりました。この結果、資産の総額から負債の総額を差し引いた「正味財産」は130億4,484万円となり、前年度比7,322万円(0.6%減)の減少となりました。

貸借対照表 平成25年3月31日

科 目	本年度末	前年度末	増 減
資産の部			
固定資産	11,611,877	11,767,857	△ 155,979
有形固定資産	5,965,147	6,168,478	△ 203,331
その他の固定資産	5,646,730	5,599,378	47,352
流動資産	2,295,952	2,238,995	56,957
資産の部合計	13,907,830	14,006,852	△ 99,022
負債の部			
固定負債	588,165	610,989	△ 22,824
流動負債	274,817	277,793	△ 2,975
負債の部合計	862,983	888,783	△ 25,800
基本金の部			
第1号基本金	11,502,148	11,495,695	6,452
第4号基本金	202,000	202,000	0
基本金の部合計	11,704,148	11,697,695	6,452
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入超過額	1,340,698	1,420,373	△ 79,675
消費収支差額の部合計	1,340,698	1,420,373	△ 79,675
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	13,907,830	14,006,852	△ 99,022

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、(単位 千円)
合計など金額が一致しない場合があります。

平成24年度決算報告

●事業の概要

本学は、地域に有為の人材を養成するという建学の精神を基本とした、中長期指針「岐阜経済大学50周年ビジョン」に基づき、戦略的課題実現のための「アクション・プラン2009-2012」を策定し実行してきました。平成24年(2012年)度は、その目標達成の最終年度として精力的に事業を実施しました。主な事業の概要は以下の通りです。

(1) 学生教育

学生教育は、丁寧な教育を行うことを目的に①初年次教育の充実、②ゼミ教育の充実、③基礎学力の向上、④地域実践型教育の推進－正課及び正課を補完する教育－、⑤地域実践教育の推進－課外における発展的な教育－、⑥教員採用試験、公務員試験、社会福祉士国家試験対策の充実、⑦キャリア教育の充実、⑧国際化教育の取り組み、⑨学士課程教育の質保証、⑩FD活動の活性化に取り組みました。特に基礎学力の向上を図るためのリメディアル教育として、PAC講座を開設しました。このPAC講座は、「発展職業プログラム」(Program for Advanced Career)という本学独自の、リメディアル教育にとどまらず、教員試験対策357時間、公務員試験対策559.5時間の講座でカリキュラム編成をしています。

(2) 学生支援

学生支援は、学生生活のより一層の充実を目的に①学生支援体制の強化、②就職支援体制の充実、③快適・健康的なキャンパスづくりに取り組みました。特にキャリア教育の支援として、ハローワーク大垣と連携したキャリア事業を行いました。具体的には、「保護者向け就職講話」、「ゼミ単位での就職講話」、「学生ジョブカードの作成指導」、「キャリアコンサルティング」の展開です。この取り組みによって、学生たちは早期からキャリア意識

を高め、就職活動への積極的な行動へと繋がっています。

(3) 教員研究

教員研究は、①個人研究・共同研究の推進、②外部資金の活用に取り組みました。その成果として、10冊以上の共著刊行、40本以上の論文発表、3件の共同研究事業の実施、『岐阜経済大学論集』の刊行、2件の科学研究費補助金及び、9件の受託研究を獲得しました。特に、受託研究における環境省「環境研究総合推進費」は公的研究費に位置づけられるもので、公募により採択という成果をだしています。

(4) 地域連携

地域連携は、「地域との共生」という本学の教育理念から①ボランティア活動の推進、②産業界・企業・行政等との連携推進、③生涯学習への対応、④地域連携の推進、⑤図書館の市民開放、⑥高大連携及び大学間連携に取り組みました。特に東日本大震災への支援の継続活動として複数の学生団体が参加しました。さらに、昨年秋に行われた「ぎふ清流国体」及び「ぎふ清流大会」への役員及びボランティア等へ多くの学生や教職員が参加しました。

(5) 主な施設・設備

- ①陸上競技場第4種公認の継続認定(写真判定装置機器整備)
- ②4号館教室及び図書館空調設備の改修(省エネルギー・集中管理機能設備)
- ③「スポーツ映像」、「スポーツ動作分析」講義科目の情報機器及びソフトウェアの整備

●財務の概要

資金収支計算書では、次年度への繰越支払資金は22億2,179万円となり、前年度より5,303万円増加しました。

消費収支計算書では、帰属収入合計額から基本金組入額と消費支出合計額を差し引いた半年度の消費収支差額は7,967万円の支出超過となり、累積では翌年度への繰越消費収入超過額は13億4,069万円となりました。

(1) 資金収支計算書

「資金収支計算書」は、当該会計年度(4月1日～翌年3月31日)の諸活動に対応するすべての資金(現金の出入り)の動きを表したものです。資金収支の内容について、主な科目を説明します。

①収入の部

〔学生生徒等納付金収入〕

授業料、入学金、実習料、施設設備資金等の収入です。授業料納付学生数は1,301名で、納付金収入は前年度比2,608万円の減少となりました。

〔寄付金収入〕

一般寄付金としてポート部寄付金547万円、民間団体からの留学生奨学金70万円、親和会からのスクールバス運行費助成金600万円を受け入れました。

〔補助金収入〕

国庫補助金、地方公共団体補助金の収入です。国庫補助金は2億6,028万円、地方公共団体補助金は、岐阜県からの結核予防費補助金、大垣市からの中心市街地協働型まちづくり事業の助成金合せて61万円を受け入れました。

〔資産運用収入〕

定期預金等の受取利息収入1億3,932万円、本学施設設備の貸出利用料収入912万円です。

〔資産売却収入〕

有価証券の早期償還等に伴う売却額5億110万円です。

〔事業収入〕

環境省等からの委託事業9件の受託事業収入3,856万円、その他、公開講座受講料等収入603万円です。

〔その他の収入〕

退職給与引当特定資産2,000万円の取崩し、有価証券で運用している減価償却引当特定資産10億円を早期償還等により繰り入れていました。また、前年度退職者の退職資金交付額及び前年度受託事業費の未収入金6,985万円が主な内容です。

②支出の部

〔人件費支出〕

専任教職員等の給与及び退職者への退職金支出等です。退職者の補充を行う一方、人件費の抑制を図りましたが、退職者の増加(前年度比4名増)により、全体では828万円の増加となりました。なお、人件費支出には、受託事業等の業務請負額1,840万円を計上しています。

〔教育研究経費支出〕

陸上競技場再整備事業、学生への奨学事業(学費減免、私費留学生奨学金等)、語学留学助成事業、課外活動助成事業(強化・準強化指定クラブ合宿費、遠征費等)等が主な支出で6億3,275万円となりました。

〔管理経費支出〕

広告費や高校訪問等の学生募集経費及び維持管理費が主な支出で1億6,783万円となりました。

〔施設関係支出〕

4号館4101教室及び図書館空調設備の更新を行い、1,365万円となりました。

岐阜経済大学親和会総会・ 父母懇談会を開催しました。

学場 本会

去る6月22日(土)午後10時より、136名の父母の皆様の出席を得て、2013年度親和会総会・父母懇談会を開催しました。総会では、土井田直也親和会長、石原健一学長、浅野照章副理事長が挨拶をし、その後、議事に入り、伊藤大治新会長の選出や2013年度事業計画・予算案など全ての議案が承認されました。

総会終了後は、父母懇談会の第一部へと移り、本学経済学部准教授の樋下田邦子氏より「ボランティアが持つ3つの力」岐阜経済大学ボランティア・ラーニングセンターの活動から「をテーマとした講演が行われました。

その後、日頃、学生が授業や休み時間を利用することの多いPAC支援室・学習室や体育館、図書館などを、希望されるご父母の方々が2つのグループに分かれ、見学されました。



昼食は、食堂にて無料のキャンパスランチを体験していただき、皆様からご好評を得ました。

第2部では全体懇談会が行われ、教職員関係、就職関係の各部門別に大学側からの説明があり、熱心に聞き入るご父母の皆様の姿に関心の高さが伺えました。

その後、教職課程受講について寺口菜さん(スポーツ経営学科3年)、高橋(健)ゼミ、就職活動について矢野啓太さん(経済学科4年)、木村ゼミ、学生生活について吉川類さん(スポーツ経営学科4年)、大野ゼミの3名が各々の体験から得たものを報告しました。

全体懇談会後、希望者の方の個別懇談へと移り、単位取得状況や出席状況をはじめ就職活動や日常生活に関する質問など、各部署の担当職員がご父母の方々と懇談を行いました。

地方 地会

今年度は、沖縄県那覇市「パシフィックホテル沖縄」及び福井県福井市「ユアースホテルフクイ」の2会場において開催され、計57名の方にご参加いただきました。

各会場ともに、大学から教職員および就職に関する説明の後、全体の懇談会へと移り、日頃の悩み等について相談し合ったり、学生の活躍についての話でつながりが増えたりと、和やかなムードの中、懇談しました。今後本会を大学とご父母の皆様、ご父母の皆様同士の「コミュニケーションの場」として積極的に活用していただきたいと思います。来年度も多数のご参加をお待ちしております。

かがやきカレッジ2013〈後期講座〉を開催します。

10月1日(火)より大垣市・本学共催によるかがやきカレッジ2013〈後期講座〉を開催します。
今年の全体テーマは「私たちの日常生活について考える」です。ぜひご参加ください。

- 場所 岐阜経済大学
- 開始時間・終了時間 18:00~19:30
- 受講料 無料
- 申込み 電話・FAX・メールにて
氏名・住所・電話番号を岐阜経済大学
企画広報課へお申込みください。
- TEL 0584-77-3534
- FAX 0584-81-7807
- E-mail kikaku@gifu-keizai.ac.jp
- 申込み期間 9月2日(月)から随時

かがやきカレッジ2013〈後期講座〉			
第1回	10/1(火)	高くてもブランドを買ってしまうのはなぜか? ~その理論的検討~(1)	中西 大輔 経営学部専任講師
第2回	10/8(火)	高くてもブランドを買ってしまうのはなぜか? ~その理論的検討~(2)	
第3回	10/15(火)	体育・スポーツにおける体罰・暴力問題を考える(1)	伊藤 嘉人 経営学部専任講師
第4回	10/22(火)	体育・スポーツにおける体罰・暴力問題を考える(2)	
第5回	10/29(火)	最近の税制改正の動向~相続税を中心に~	石坂 信一郎 経営学部教授
第6回	11/5(火)	最近の税制改正の動向~寄附金税制を中心に~	
第7回	11/12(火)	アベノミクスは、どんな「日本を、取り戻す」のか? ~アベノミクスの基礎知識~	高橋 勉 経済学部教授 (経済学部長)
第8回	11/19(火)	アベノミクスは、どんな「日本を、取り戻す」のか? ~その源流と日本経済の将来~	

後期受講登録

後期受講登録は、9月9日(月)から開始のWeb予備登録を始めとし、9月25日(水)まで行われます。成績表とともに配付される資料をよく読んで、所定の期間内に受講登録を済ませてください。

Web予備登録

9月9日(月)から始まる後期Web予備登録(定員がある科目の受講登録)は、1期、2期、3期と、3回に分けて行われます。

なお、予備登録で許可された科目の取消および変更は一切できませんので、登録の際は十分注意してください。

Web受講登録

後期Web受講登録は、9月23日(月)~9月25日(水)の間に行ってください。Web予備登録対象科目以外は、一部の例外を除き、原則この期間に受講登録を行います。期間内は登録の変更が可能です。

受講登録表の配付

受講登録期間終了後、受講登録表を配付します。受講登録表でエラー等が発見された場合、または、受講科目の追加を行いたい場合は、エラー修正追加登録期間となっている10月1日(火)~10月3日(木)の間に、教務課窓口で手続きを行ってください。

所定の期間内に申し出がなければ、エラー等が発生していてもそのまま受講登録は確定してしまいます。エラー等がある受講登録を放置すると、卒業が遅れるなどの重大な結果を招く恐れがありますので、受講登録表は、慎重に確認してください。

なお、経済学部では、連携自治体の首長や職員などによるオムニバス講義「公共政策特論」が開講されます。奮って受講してください。